

## 社員総会（第7期第4回 オピニオンメンバー会議） 議事録

日程；2024年11月17日（日） 午前10時00分より12時00分

会場；A P新橋 ROOM\_J および Zoom meeting

（会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催）

議長：齋藤 健

議事録著名人：浜端町子／高澤淳仁

### 議案（審議事項）

第一号議案 ヘルスケアミーティングの反省および来年の企画について

第二号議案 事務局費の値上げについて

第三号議案 会費について

その他 ・ホームページの改定作業の進捗状況

・第7期オピニオンメンバーの任期満了にあたって

田中正大理事より第7期第4回オピニオンメンバー会議の開始の宣言があり、続いて議長  
長の選出があり、齋藤健先生を指名した。

齋藤健先生（以下議長）より本日のオピニオンメンバー会議成立が宣言された。（会場 24  
名・オンライン 29名 計参加者 53名 委任状 23名）議事録著名人に浜端町子さんと高澤  
淳仁先生を指名した。

議長：では1号議案、ヘルスケアミーティング 2024 の反省および来年の企画について、  
高橋代表をお願いします。

高橋：皆さん、10月のヘルスケアミーティングにご参加いただけましたか？ 今回のテーマは「歯周基本治療からはじまるヘルスケア歯科診療」でした。ただ、今回このテーマを取り上げるに当たり、実際その技術的なレベルの手前でいろんなトラブルを抱えている、つまづいてる、という医院が結構多いことから、今回大西歯科の野村さんに依頼して、院長の話にスポットを当てたパートを作りました。僕がこの企画を担当したわけではないですが、これはみんなが考えるきっかけとして聞いてもらえたかどうか、とても大切な部分だと思います。それはなぜか？

院長だけ改善したら診療室がよくなるのか？ 決してそうではないと思いませんか。そのことをみんなが自分ごととして考えられるかどうか非常に大切だと思います。そして、ヘルスケア歯科学会の人たちならそれができると思うのでこのテーマを取り上げている。他団体だったら絶対取り上げられないと思いますよ。ですから、医院として振り返りもしてほしいし、また皆さんが集まる場、プロジェクトだったりフォーラムだったり、いろんなところで意見交換もしてほしい。いい臨床、いい医院をつくるということにつながっていくと思います、ぜひよろしくをお願いします。

2日目の午前に関しては、いろんな形・立場の参加の人が少しでも、参加したい、参加して良かったと思えるようなトピックスをとということで、3パートに分けてみました。どのパートも人が程よく分散されて良かったのではないのでしょうか。来年に向けてバージョンアップできればと思っています。診療所単位で参加されているいろんな立場の人が「今日この話が聞けて良かった」と思えるものになればうれしいなと思います。

2日目の午後は、今回「UP-SRP」という手法を取り上げましたが、これも皆さんに真意が伝わっているかどうか、どうでしょうか？ 藤木先生が説明はしていましたが、少し僕のほうから補足をします。長年、特にここにいる会員の皆さんは初めて聞く話ではなかったはずですが、よね？ 講演も最初にそういう説明がありました、前置きもありました。

藤木先生の歯周治療について少し話をしますと、以前、藤木先生がワンデーセミナーなどで、「SRPを勉強するなら、長谷ますみさんのミントセミナーに行って勉強するといいよ」とよく言われていました。西日本エリアの人はそうすることが多分多かったんだと思います。

今から7~8年前に藤木先生の診療室に行った時に歯周治療を見ると、少しやり方が違って「藤木先生、やり方が違うじゃないですか？」と言うと、「いや、いろいろ実験して変えていってるんだよ」とおっしゃいました。彼は歯周治療に限らず、いろんなことを自分で疑問に思ったらよく実験をしています。ペリオだったら抜去歯牙を使って、超音波スケーラーでどうやったら効率的に縁下歯石が落ちるんだろう、みたいな。それを整理していったら今の形になったという話なんです。

ですが、超音波スケーラーのチップの目的外使用みたいなところもあったので、そこで藤木先生の使い方に合うチップを交渉して開発してもらったり、じゃあ、今のやり方を冊子にまとめようとしたときに、そういうのは名前を付けてきちんと整理したほうがいいのではないか、と杉山先生から話があって、今回「UP-SRP」という名前を付けてあのよようなプレゼンになりました。

ですから、いろんな経緯がありましたが、あくまでもヘルスケア歯科学会としては歯周治療の「選択肢の一つ」の紹介でした。これをみんなが絶対にこのやり方でやらなければいけないというわけではなく、要は歯周病が歯周基本治療できちんと治ればいいわけです。それを示せばいいわけです。今回は2日目の最後に、みんなで聞くパートにたまたま割り振られただけで、「絶対これを！」と勘違いしている人がいるかもしれないので、

教えてあげてください。選択肢の一つの紹介です。

あと、ポスター発表について。皆さん、ポスター発表は見てもらえたでしょうか。ポスター発表を動画に撮って、YouTube で紹介するという企画がありました。とてもいい企画でした。ぜひ動画を見てください。ポスター発表自体もヘルスケアとしては強化したいパートの一つです。ぜひ注目して、見るだけではなく、発表側に参加していただけたらと思います。以上です。

議長：高橋先生、ありがとうございます。ご意見ありませんか。では私から。議案書のヘルスケアミーティング 2024 の下のところに収支が出ておりますが、そちらについても説明をお願いします。秋元さん、いかがですか。

秋元：ヘルスケアミーティング 2024 の収支は書面の通り記載しているだけです。ここで短く言うと、分かりにくいのは下から 3 行目のヘルス使用換算 83 万 6,000 円があります。参加者のうち、かなりの方がお金ではなくて学会内通貨のヘルスポイントを利用された、ということです。このヘルス通貨ですが、ご存知のとおり、学会の活動に貢献された、作業をされた方にポイントとして付与しているものです。今回は参加費の値上げもあり、このポイントを利用された方が例年より多かった、それが換算すると 83 万 6,000 円分ありました。この部分は実際収入はありませんので、お金として計算するとその分マイナスが出るということです。

それについてはいろんなご意見があるかとは思いますが、それを含めた状態では、記載のとおり、収支は 7 万 5,000 円程度のマイナスになりました。これは、当初の期待値より参加者数が少し少ないということがあっての数字ですが、全体として見ると、会場費が規模の大きさの割に安いということもあって、大きなマイナスを出さずに済んだと考えています。参加者数やその他は議案書どおりです、ご覧ください。以上です。

議長：秋元さん、ありがとうございます。第 1 号議案につきましては、高橋先生から内容を、秋元さんから収支のお話をいただきましたが、皆さま、ご意見がございましたらお願いします。では河野（正）先生、お願いします。

河野（正）：東京の河野です。黙ってようと思いましたが、みなさん発言がありませんので、ちょっと寂しいと思い発言します。収支の話ですが、私は非常に良かったと思います。記憶が定かではありませんが、少し前までは毎年 100 万とか、年によっては 200 万といった赤字を出していたような気がします。この程度の赤字ならば全然問題ない。むしろ非常にうまく運営したのではないかと思います。私はすごく良かったと思います。以上です。

議長：河野（正）先生、ありがとうございます。他にございませんか。オンラインの方々もいかがでしょうか。はい、河野（正）先生お願いいたします。

河野（正）：今回久しぶりに会場を 3 つに分けて、違う演題というか発表の場をもうけた。恐らく、皆さん、どこに行こうかとすごく悩まれたと思います。たぶん、分けないでほしいという意見もあるかもしれませんが、分けることでいろんな角度からいろんな企画ができる。私は今後もこのかたちで、いろんな企画があったほうがいいんじゃないかと思

ます。

ただ悩ましいのは、選択以外のパートが見られないということがすごく残念だったなと思います。例えばビデオとか。確か各会場で録画してあったと思うので、せっかく参加費を払ってヘルスケアミーティングに参加した方については期間を区切って、例えば事務局に「このパートちょっと見たいんだけど」というような連絡をすると、その分のビデオを期間限定で1カ月とか1週間とか、後で見られるというような形にさせていただくとすごくありがたいんじゃないかなと思いました。今後も会場を分ける場合には、そのあたりも検討していただきたいなと思います。以上です。

議長：貴重なご意見ありがとうございます。札幌の斉藤先生からチャットが入っていますか。

渡辺：(斉藤先生のチャットを読み上げ...) 2日目の演者は参加できなかった他会場の録画を見せていただけるとの話でしたが、どうなっていたのでしょうか？

渡辺：多分、今後流れてくると思います。今、コアメンバー内で確認をしている最中です。

議長：渡辺先生、ありがとうございます。秋元さん、お願いいたします。

秋元：事前の約束では、2日目の演者と、3つの会場に分かれて当日お手伝いしていただいた係の方には、その仕事のために別の会場を聴講することができなくなることを考慮して、記録を撮って見られるように対応することにしました。参加者全部にそれを見せるということで準備したわけではありません。だから、映像も音声もあまりよくありません。つまりお金を払ったことに対する対応というようなものではありませんので、当初そういう準備ではなかったっていうことを、斉藤先生の今のチャットのご質問はその点において誤解があると思いますので付け加えておきます。

議長：秋元さん、ありがとうございます。

斉藤：2日目のプレゼン(演者)をしましたので、参加できなかった他のパートを見せていただけるとの話が、まだ見せてもらえてないので、どうなっていますか？ という意味での質問でした。みんなに見せてくれということではありません。1本目は案内が来ましたが、それ以外のいくつかはまだ見せていただけていないので、どうなっていますか？ という質問です。それに関しては、渡辺先生からのこれから来ますということでもいいのでしょうか？

渡辺：はい。

議長：では、斉藤先生よろしいですか。

斉藤：はい。誤解じゃなくて、演者参加でしたので、聞いたということです。

議長：分かりました。ありがとうございます。他にございませんか。よろしいです。はい林(由)さん、お願いします。

林(由)：福田デンタルクリニックの林です。今回、「UP-SRP」がメイン会場で発表されまして。私たちは歯科衛生士基礎コースの講師をしておりますけれども、会としてどんなふうに「UP-SRP」を取り上げるのかということで、あの後これからどうなるんだろうとみんなと言っておりました。ですが今日、高橋代表のほうから「ちゃんと治ればいい」「UP-

SRP は選択肢の一つである」ということを聞きましたので、コースはこのまま今までどおり続けていけるかなというふうに安心しました。私たちの中では、あれを会としてメインでやっていくとなれば、指導の仕方も変わっていきますし、皆の衛生士としての考え方もいろいろありますので、その辺を今日伺いたかったのです。最初に聞いてよかったです。ありがとうございます。

それと 2 日目 1 コマ目ですが、山田さんと私とで認定歯科衛生士のパートを担当しましたが、当日、ふたを開けてみると席の配置から全部用意しないとイケない状態で、映像の確認もできないままばたばたと始まってしまいました。もし同じ会場を来年も使われるのであれば、事前に準備をちゃんとしたいです。やはり参加費を頂いて、貴重な時間を頂いているので、もう少しスムーズにやりたいなと思っております。来年も枠をいただけると伺っておりますので、来年はもう少し準備できますか？

高橋：林さんありがとうございます。そこは改善します。今年は既に会場の予約が入っていて、使用できなかったのです。来年は前日夕方から準備できるような段取りです。

林（由）：はい、ありがとうございます。以上です。

議長：林さん、高橋先生、ありがとうございました。それでは、来年の企画に移ろうと思います。よろしいでしょうか。こちらは、1 日目を古市先生からお願いします。

古市：コアの古市です。来年のヘルスケアミーティング 2025 についてお話をさせていただきます。

来年も会場は同じ一橋講堂で、日程は 11 月 2 日（日）、11 月 3 日（月祝）の 2 日間を予定しております。1 日目は、先ほどまで話があったように歯周基本治療に関しての今年のテーマを踏まえた内容を企画中です。メインテーマとしては「ひとをみる歯周基本治療」。これに関しては軽く説明いたしますと、「ひとをみる」という言葉に 2 つ意味を持たせております。

「ひとをみる」といった中で、歯医者としての働きの中には「歯を診る、口を診る、人を診る」というような言葉があるように、ヘルスケアの根本としては、患者さんの歯を診る、口を診るだけではなくて、その人の人生を見て守り育てていくのが大切という意味で、それを歯周基本治療の中に置き換える。そういったものを皆さんで学んでいくということ。

また、もう一つ「ひとをみる」というのを平仮名で書いていますが、この「ひと」という言葉の中には、自分の医院をみるとか、あるいは他人をみる、他人の発表をみる。そういったものを、それをみるというのも「診断の診る」とか、あるいは「観察の見る」とかいろいろな言葉に置き換えることによって、具体的には他院の発表、それを見ることによって自分の中で気づきが生まれのではないかと思います。

その中から自分あるいは皆さんで、ディスカッションを通して他人と自分の医院の総合力アップにつなげることができるようになればいいのかなと思って、このテーマを組ませていただきました。まだこのテーマに関しても具体的ではありませんが、その辺りは

ご了承ください。

内容に関しましては、おととい初めての会合をしました。藤木先生、高橋先生、秋元さん、それから千草先生、皆さんのご意見を聞いた上で内容を詰めていております。また、発表者等も近日中にお知らせできるかと思いますが、内容等についてこれから先、もしご興味がある方は僕のほうにご連絡ください。打ち合わせ等にも参加していただき、ご意見をお聞きしたいと思います。皆さんよろしくお願ひします。1日目は以上です。

議長：古市先生、ありがとうございます。2日目午前中が林（浩司）先生、午後が杉山（精一）先生。まず林先生からお願いします。

林（浩）：皆さま、おはようございます。コアの林です。2日目の午前は、今年のヘルスケアミーティングに続いて「あっちもこっちもヘルスケア」第2弾ということで、私が担当することになりました。先日のヘルスケアミーティング 2024 にて、いろんなところでいろんな人に声かけをして、来年のプログラムについて、既に相談をしています。少しずつプログラムも固まりつつあります。

今年と同じように3つの会場に分かれて6つのプログラムで、先ほどお話があったようにスタッフを連れてきた医院はこっちも聞きたいあっちも聞きたい、今日ここでこういうプログラムがあってよかったな、というようなものがつくれるように今から準備をしておりますので、皆さんぜひご協力よろしくお願ひします。以上です。

議長：林（浩）先生、ありがとうございます。午後のパートについては杉山（精）先生にお願いをいたします。

杉山（精）：はい。杉山です。議案書の2ページの真ん中あたりに書いてあります。2日目の午後は招待講師に、主に「根面う蝕」について取り上げてもらおうと考えています。根面が露出させないようにするところで「歯周基本治療（歯周治療）」と非常につながりが深い部分ですので、これから打ち合わせを進めていきたいと思っています。

なるべく1日目のところから、歯肉退縮をして根面が露出しないように、そして露出してしまった場合には根面に対してどのように考えていくのかという流れでもっていければいいなど、今は考えています。

招待講師はディスバイオシスの第一人者である東北大学高橋信博教授です。いろんなところで執筆されておりますが、なかなか講演は。当学会では1回しかまだ来ていただいていないんですが、ちょうど来年のスケジュールが合い、60分程度の縁上と縁下のディスバイオシスについての話をしてもらいたいと考えています。

そして、やっぱりどうやって防いでいくのかという部分ではフッ化物も大事ですので、石塚洋一先生にもお声がけしております。

ただ2人の講演を聴くだけではなくて、もう少し臨床的に落とし込むためのその部分も、これからプレゼンを加えて具体的に進めていきたいと思っています。

終了時刻は今年と同じ3時半、遅くても4時までにはと思っています。詳しくは来年の春ぐらいに告知をできると思います。この講師は確定です。以上です。

議長：杉山（精）先生、ありがとうございました。では、来年の企画についてご意見ご質問はございませんか？ オンラインの方々もいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは次、第 2 号議案に移ります。第 2 号議案 事務局費の値上げについて。こちらは、高橋先生でよろしいですか。

高橋：はい。また高橋です。議案書 2 ページの事務局経営費の値上げについてのところを皆さんご覧ください。細かなところは後で秋元さんにも解説をしてもらいますが、僕からは現状背景、その他をちょっと話します。

ヘルスケア歯科学会の運営面では、本当は事務局にもっとお金を払いたい状況です。それぐらい人をかけ、作業をかけてサポートをしてもらっているという現実があります。ですからこの議案書の数字でも多分、いろんな昨今の物価上昇や値上げを考えると足りないのではないかと思います。頑張ってもらっているところです。この経費については、会費の高い歯科医師の会員を増やすことで改善できるのではないかと将来的には思っています。

このオピニオンメンバー会議の場でも僕が何度か発言しましたが、理想は会費の高い歯科医師会員の入会を毎年 100 人にしたいという希望をお願いしています。セミナーから年間 100 人を企画委員会の渡辺先生に。それから、今はまだ完成はしておりませんが、ホームページから、本当に幽霊会員でもいいんです。年間 50 人、クリックして入ってくれる人がいたらうれしいなということで、丸山先生や秋元さんをお願いをしてもうすぐできてくる予定です。そんな現状があつてのこの経費の値上げを議案にあげました。詳細は、秋元さんお願いします。

秋元：私の事務所で事務局を請け負っている関係で、大変心苦しいですが。この会を法人化してスタートした当初は、今より事務局費は高かったんです。しかし会員数が設立 3 年目に急減しましたので、事務局費負担を下げるために、現在のほぼ人に関わる部分 20 万円、場所や電話代にかかる分 6 万円という金額に、あとはホームページ等の管理、通信関係の直接経費がありますが、1 万 3,000 円として本会に対して私の事務所が毎月請求している額になりました。

この表に書きましたが、それは、先生方がご自身の診療室でどれぐらい費用がかかるかということをおとんどの方が経営されているので説明するまでもないと思いますが、この金額はかなり厳しい金額です。ただ、これ以外にも他にうちのスタッフが会の仕事をすることはありますが、その場合はその都度、請求しています。例えば会誌に関わる編集費用とか制作費用などです。それはそれで収支は合っています。ですが、事務局費として総括的にご請求している分はこの額です。

従来頑張ってきましたが、消費税の問題や昨今の郵便料金の大幅な値上げ、物価上昇など、かなりきつい状態です。今、この機会であれば、皆さんにご理解いただけるのではないかとお願いした次第です。

高橋先生が言われるように、そんなことではあんたんとこ足りないんじゃない

の？ って言われましたが、一つの私のところの企業体を運営していく上で、お金だけを取れば大きなマイナスもあればプラスもある。お金以外のところでのプラスやマイナスもある。事業というのはそういうものだと思いますから。一つひとつの、それこそ診療報酬がどの項目でもツーペイである必要はないんだから、全体として何とかなっていればそれでいいということから、今回この、人に関わる部分 20 万円を 24 万円とし、場所・通信に関わる部分を 6 万円から 8 万円にするという、2 割近い大きな値上げとなりますが、それをご提案したということです。ご検討ください。

議長：高橋先生、秋元さん、ありがとうございます。今のご発言につきましてご意見ご質問はございますか？ 具体的に金額もご提示くださっておりますけれども、その点につきましてもございませんか？

河野（正）先生、お願いいたします。

河野（正）：東京の河野です。今の秋元さんの説明を聞かれば、今回値上げについては、皆さん異議は全くないと思いますが、もう少し長期でこの問題を考える必要が、そろそろ出てきているのではないかなという気がするんです。というのは、この会ができてから 25 年ですか、ずっと秋元さんの事務所におんぶに抱っここの形でやってきていただいています。今の説明を聞いてもそんなに裕福というか、あんまりメリットが秋元さんにはないような状況だと思うんですね。

これからまだまだ 5 年ぐらいは秋元さんも元気だと思いますが、これが 10 年後、15 年後を考えると、今のこの会がその時になくなっちゃうとは考えたくはない。そうすると、秋元さんの手が離れてもこの会を運営していくことができるビジョンとございますか、事務局がちゃんと任せられるような、お願いできるような金額とか、そういうことも含めてやっぱり長期の目を持ってコアの先生方には議論していただきたいなと思います。今はいいけど、いつまでもそのままではいけないという、ちょっと懸念がありましたので、その辺り含めて今後よろしくお願ひしたいと思います。

議長：河野先生、ありがとうございます。オンラインの方々もいかがでしょう。では私から秋元さん。これから議決なので、先走っているようで申し訳ありませんが、いつから値上げか、お考えはありますか？

秋元：これは、コア会議において、議案として了承をいただいた時に申しあげたのは来期から。来期とは、2025 年 1 月からというのが希望です。

議長：秋元さん、ありがとうございます。他にございませんか。なければ議決に移りたいと思います。会場リアル参加の方は挙手にて、オンラインを繋いでいても画面上では操作をなさらないようにしてください。

大井：議長先生、すいません。大井からいいですか、議決の前に。

議長：お願いします。

大井：すいません。これは議決の前に、3 号議案がそれに関連すると思うので、3 号議案を進めてから議決を取ったほうがいいのではないのでしょうか。異論はありませんが、それに

関連することだと思うので。

議長：はい、分かりました。では、大井先生のご意見のとおり、第3号議案を審議して2号議案の議決に移るということにいたします。それでは第3号議案を先に審議いたしますので、この2号議案の投票はいったん取り上げます。

では第3号議案に移りたいと思います。田中先生お願いします。

田中：はい。3号議案 年会費についてです。議案書に記載のとおりですが、私と丸山（和）先生から少し説明したいと思います。昨今、来る日も来る日もテレビを見れば物価高騰。キャベツが高いだの、これはあんま関係ないです、季節ものなので。

郵便料金がびっくりしますけど、普通郵便が84円から110円、ものすごい値上げ率です。当然物流関係も全部上がっている。インフレの時代に入ってきた。われわれが子どものころは、河野（正）先生もそうだと思いますけど、毎年物価が上がる。10円のボンボンアイスが15円になり20円になりと、そういう時代だったのですが、恐らく今30代・40代の方は、生まれてこの方あまり変わってない。

そういうところで、この物価が上がるという時代に入ってきて、会費も過去オピニオンメンバー会議のたびにありがたいことにそういう提案をいただいていたこともありました。現状を今までは維持してきましたが、今後はそういうわけにもいきまいということで、本会の会費について見直すべき時期ではないかという意見がコアメンバーからも出ました。取りあえず今日のオピニオンメンバー会議で意見をうかがい、来春のオピニオンメンバー会議は決算総会でもありますけども、そこで議案を出して議決できればと思っています。私は以上です。丸山（和）先生お願いします。

議長：田中先生、ありがとうございました。では丸山（和）先生。

丸山（和）：コアメンバー、神戸の丸山です。追加で少しご説明させていただきます。第2号議案に続いての第3号議案ですけれども。実際、議案書には事務局費およびと、最初に事務局費の話が出ていますが、私の記憶では、コア会議上では会費の話があって、それに乗じて事務局の案が出てきたと記憶しております。

それから、オピニオンメンバーになって歴の浅いメンバーもいらっしゃると思いますので補足しておくと、「何度も検討議案として上がっていたものですが」について、さっき田中先生もおっしゃいましたが、上げよう上げようという感じで検討に挙げて保留になっていたわけではなくて、「収支が少し厳しいよね」という話が出た時に、「会費を上げればいいじゃないですか」という話が割とオピニオンメンバーの中から出て、「いやいや、ちょっと収支が悪くなったから、会員が減ったから上げるっちゃうわけにもねえ」という感じで押しとどめていたという歴史があったように思います。

今回はこういう事情ですので、コアメンバー会議でも会費増の話が出ております。個人的な意見を含めてその時出た話では、郵便料金値上げは本当にびっくりしましたし、ヘルステアミーティングとかワンデーセミナーとか、催し物の参加費は実は少しずつ値上げしています。結果的には、そういうことに参加されるアクティブな会員さんが負担増に

なっているわけです。

逆に、さっき幽霊会員という言葉がありましたが、サイレントな会員さんの負担はずっと変わらず低いまま、分厚いニュースレターが郵送されてきているのを受け取っていらっしゃる。この意見を私が言った時は、ヘルス通貨のことはうっかり失念していたので、アクティブな会員さんは会員さんでその恩恵は預かっているんだなってことは思いましたけども、その辺のバランスを取ってもいいのではないのか、という意見がありました。

あと、イベント・セミナー関係は、最近はだんだん若い先生に運営をお願いする機会が増えています。1 イベントごとの収支報告も出るようになりました。予算を気にしながら集客を、みたいなことを気にして運営することになっております。

私とかがイベント事に携わるようになった頃は会場費も安かったですし、少なくともそんな赤字を出した覚えはないですが、そんなに収支のところを気にしながら、細かい計算をしながらやったことは実はあんまりありません。大体これぐらいで、みたいな感じでやってきた経緯があって。その辺は、先ほどもプラスの部分があってマイナスの部分があってという話がありましたが、個別のイベント事にあんまりきゅうきゅうしなくてもいいようになればというのが理想です。

で、会費の話です。こちらは3月の総会で議決したいと思っております。決まれば2026年会費からの実施の予定です。実は、歯科医師会員1万5,000円、じゃあ歯科衛生士（その他会員）さんどうしようかという話をしておりますが、この場で方向性が決まり、3月に議案として出させていただくような流れにしたいと思っております。以上です。

議長：丸山（和）先生、ありがとうございます。今、お二人から議案につきまして解説していただきましたが、ご意見ご質問等ございませんか。丸山（和）先生、私からですが、値上げ額はドクター以外についてはまだ決定していないという解釈でよろしいんですか。

丸山（和）：ドクターに関しても金額は決定しているわけではありません。

議長：わかりました。そうすると、来年のオピニオンメンバー会議で議案を出すということですね。

では、第2号議案につきまして、事務局費の値上げについてです。採決に移りたいと思えます。オンライン参加の方は画面上の投票でお願いします。リアルに会場参加の会場の方は挙手にてお願いいたします。

はい、全員採決をいただけたということです、ありがとうございます。第2号議案につきまして、オンライン参加の方からも100%ということで賛同をいただきました。ありがとうございます。

ではその他のところに移りましょう。ホームページの改定作業の進捗状況ですが、丸山（和）先生でよろしいですか。

丸山（和）：コア、神戸の丸山です。この件に関しては「そろそろ出さないよ」という声を実際聞きますし、分かっておるつもりです。今のホームページはこのままでは駄目だよねっていうのは、もう皆さんお分かりのとおりですが、かといって入り口をスタイリッ

シュにすればそれだけでいいのかというわけにはいかない。好み、センス、こだわりのあるメンバーが忙しい中、いろいろやっています。座長的な役割をしていた私が早い段階で方向性、作り込み方を決めて進められなかったということもあります。行きつ戻りつしておりましたが、大体こういう感じで取りあえずいこうとなってきた、実際業者さんにも入ってもらい、作り込みというところまでではまだないですが、といったところです。秋元さんから今の状況と、こんな感じで、みたいものを示していただけると思います。

秋元：今の状況自体はまだ閑散、「え？ 今の状況その程度？」って言われちゃうから困るんだけど。今の状況の前に、経緯からご説明します。

略（ホームページの現状につき、画面共有をしながらスライドを用いて説明した）

……

杉山（精）：僕は、委員会でのその経緯を知らないのですが、実に変な労力を払っているというこはよく分かりました。例えばよく最近出てくる予防歯科学会とか、他のスタンディーグループのホームページに比べると実に中身が多いことから、この会は歴史があつて業績をしっかり残しているんだな、ということがよく分かると思いますので、デザインはもう十分だと思います。僕はこれで全然いいと思うし、もしこれに不評があるなら、その時点で変えればいいぐらいの感じです。内容がすごく充実してきているので、どこかで見切り発車をして、あと継続的に委員会として修正・更新をしていくというスタンスのほうが、そういうことが必要なのではないかと僕は思いました。

坪川：神奈川の坪川です。一意見として述べさせていただきますと、学会のホームページなので、バック全面背景画像というのはあんまり見ないかなと思います。格式をある程度上げていってということであれば、アイキャッチはすごくすてきかなと思うので。先ほど、クリックするとそのイメージに合った画像が上には出ているというようなことをおっしゃっていたので、その形で全面的背景としては白か単色かというほうが、ファジーな感じというか緩い感じには取られないで済むのかなと思いました。一意見として失礼しました。

丸山（和）：取りあえず今日お示しというか、進捗状況についてはこれでお伝えしたということにしておきます。今ご覧になって、坪川先生に発言していただきましたけども、他にも「いや、これちょっとこうなんだけどな」と思ったが言い出せないみたいなご意見は、どうぞ私のほうまで。お寄せいただくことは本当にウエルカムです。採用されるかどうかは分かりません。以上です。

議長：ありがとうございました。ホームページ進捗状況につきまして他にございますか。よろしいでしょうか。それでは、第7期オピニオンメンバーの任期満了にあたって、につきまして高橋先生にお願いしたいと思います。

高橋：皆さん、お疲れさまです。またまた高橋です。第7期のオピニオンメンバーの集まりが今回最後になります。ありがとうございました。また継続してもらえる方、よろしくお願ひします。どんな形でもヘルスケアをよろしくお願ひできたらありがたいです。

いろいろな活動がありますが、われわれのメインは、ヘルスケア診療を追求していくというか確立していくことが一番の活動かなと思います。その中で、交流する場としてフォーラムやプロジェクトがあり、今はいろんな形で集まるということでクロスオーバーミーティングというのもつくりました。ぜひ皆さん参加してください。

プロジェクト・フォーラムに関しては、区切りのよいところで出入りは自由です。自分が参加したいところへ入って交流をしてください。その交流の結果、それぞれの方のヘルスケア診療が充実していくとうれしい限りです。

ヘルスケア歯科学会も 25 年たちまして、「高齢化」という言葉は使いたくありませんが、若干アクティビティが落ちてきている。それぞれの委員会でもそうです。今はオンラインもありますので、ぜひいろんなセミナー参加してみてください。参加して良かったと思えるセミナーは多いです。

「もう、うち（の診療所）はできているから」とか、「これぐらいで大丈夫」と思わずに、このオピニオンメンバーの皆さんも参加して、また周りにも声かけをしてもらったらうれしい限りです。

ヘルスケア診療は本当に、今日午後の認証ミーティングでもそういう話をしようかと思っておりますが、患者さんに支持される診療だと思うんですね。他の診療より患者さんに支持される診療。皆さんの診療室どうですか。当院は、他地域へ引っ越す患者さんに同じような診療所を紹介してほしいとよく言われます。「いや、その地域にはないんだよね」と言うと、患者さんすごく悲しそうな顔をします。

本当にヘルスケア歯科診療に出会ってよかったなど、僕は思っていますし、患者さんに支持される診療は他にはないんじゃないかなと思うので、まだ課題はいろいろありますけど、ぜひ皆さんでいい形をこの先もつくっていったらなと思います。よろしく願います。以上です。

議長：高橋先生、ありがとうございました。今、高橋先生からアクティビティが落ちているというお言葉があって、私、非常に肩身が狭い思いがしております。複数の病気とか診療所とかで受診していることがあり、診療を短縮したりして、自分自身がアクティビティが落ちているなと思いました。ちょっと針のむしろのような思いで聞いておりました。すいません、私事でした。はい、河野（正）先生お願いします。

河野（正）：東京の河野です。先ほどの会費の値上げの件を蒸し返すわけではないですが、ほとんど何も意見がなかったということは、若干の会費の値上げはしょうがないと皆さん判断したのではないかなと思いますし、具体的に 1 万 5,000 円という数字も出てきましたが、他の学会に比べたらそれでもまだ安いと思いますので、値上げはしょうがないと思うのですが、気になったのが、歯科医師以外の会員、具体的に言うとここに 5 人ほど歯科衛生士さんもいますけども、彼女たちの年会費がどのくらい上がるのか、というのは気になる場所です。勤務している医院によっては院長先生が半分もしくは全額補助してくれるようなところもありますが、そうではない、自分で会費を払っている歯科衛生士

(その他会員)もある一定数いると思うんです。

院長はこの学会に参加していること、加盟しているっていうのかな、会員になっていることでいろいろと直接的な恩恵を受けますよね。しかも 3,000 円の値上げは別に痛くもかゆくもないと言ったら変ですけど、そんなに気にならないと思うんですけど、自分で会費を払ってまでこの会の会員になってくれるアクティブな歯科衛生士たちは、さっきの話をどのように思っているのか、せっかくこことオンラインに何人か参加していますので、彼女たちの意見を聞いてみたらどうか、と思いました。

議長：河野（正）先生、ありがとうございます。では歯科衛生士さんたちから率先して田村さんが手を挙げてくださいましたので、どうぞ。

田村：田村です。今、年会費は 3,000 円でしたか？ 3,000 円ってめちゃめちゃ安くないですか。以前は 6,000 円だった気がしたのですが、下がりましたよね。何で下げたんですか。いっぱいスタッフが入会するように？

高橋：そうです。だいぶ前、まだ河野（正）先生がコアメンバーだったころ（2015 年）に準会員制度を廃止し、医院全員正会員で入ってほしい、入ってますよね？って言いたいぐらいなんですけど、ということで、準会員から正会員へ移行する代わりに、金額を下げたと思います。

田村：そんな感じですよ。

田村：でも、だからって 3,000 円は安いですよ。私 2 つ、歯周病学会は 9,000 円、歯科衛生士会は（東京都歯科衛生士会・日本歯科衛生士会、合わせて）なんと 1 万 4,000 円なんです。だから、それに比べたら安すぎじゃないかと私は思っています。でも、今河野（正）先生が言ったとおり、院長先生が払ってくれている歯科衛生士もいっぱいいると思うので、院長の負担が大きくなるだけなんですけど。歯科衛生士個人としても、3,000 円はちょっと他に比べたら安すぎないかと思えます。私が歯科衛生士会の幹部の人に「1 万 4,000 円って年会費は、高くないですか」と聞いたんです。そしたら、「いや、もうそれでもかつかつで…」と言われました。だから、もっと高くてもいいのかな、と個人的には思っています。どうですか。

山田：東京の山田です。もちろん、私は全額自分で負担をしているタイプの歯科衛生士です。他にも学会に所属をしているので、歯科衛生士会もそうですし歯周病学会、口腔衛生学会とあと教育学会と、年会費は全て自己負担で払っています。それと、年会費を払うプラス、学会に参加する旅費、宿泊費、全て自己負担なんです。私は学校（勤務先）での補助がまったくないので、正直安すぎるとは思いますが、私にとってはものすごくありがたいです。ただ「3,000 円を 5,000 円にするよ」ぐらいだったら私の中では有りかな、とは思っているんですが、自己負担が大きいのは確かです。だからといって値上げに反対しているわけではなく、会費が上がることは、学会の運営のこととして考えれば上げてもいいんじゃないのかなとは思ってはいます。ただ、私は貧乏になりますっていうところです。以上です。

丸山（和）：ご意見出していただいてありがとうございます。大いに参考にさせていただきます

ます。

議長：ありがとうございます。順調に進んでおりますが、そろそろ終わりも近いと思いますが、全体通してご意見ご質問とかありませんでしょうか。いかがでしょう。どうでしょうか。では、丸山（和）先生お願いします。

丸山（和）：さきほど高橋代表の話聞いていて、議案書に入れてもよかったな、ということ思い出したので一つ。オピニオンメンバーの方には当初発足したフォーラム、プロジェクトにはどこか入ってくださいね、という案内をして、皆さんご活躍されてると思います。次期はオピニオンメンバーを離れられる方がいらっしやっても、もちろんそのまま継続してご参加いただいて結構ですし、また新たにオピニオンメンバーになる方には、今後お誘いする予定です。

それで今度、新しくフッ化物のチームを立ち上げたいと思っています。フッ化物の勉強から始まるのか、普及を図るのか、あるいは会に対してフッ化物の利用に関してこんな活動をしたほうがいいんじゃないか、という提案をしていただけるのか、内容はこれからですけれどもフッ化物に関するチームを立ち上げようかなと思っています。

あと現在、修復物のプロジェクトがありますが、堀坂さんが一応論文にまとめました。そこで次の課題はありますが、次の課題は近々にどうこう、というわけではないので、このプロジェクトはいったん解散します。そして、そのメンバーの多くが、医院の継承などについてディスカッションするチームに移る予定です。また別途ご案内しますので、関心のある方にはお集まりいただければと思っています。告知でした。

議長：丸山先生、告知ありがとうございます。はい、大井先生よろしくお願いします。

大井：ホームページの先生方に提案です。先日のヘルスケアミーティングに学生の参加がありました。うちの息子とその友人です。その友人が、今回のシンポジウムに参加されて、かなり感銘を受けていたんです。昨日も、それもあってうちの診療所に東京から見学にきました。そんないきさつがありまして、感じる人には訴求性があるんだなと思いました。

彼は、東京科学大学の学生さんなので国立です。今の歯学部は学生って、私立だとなかなか国家試験対策に忙しくて、学会のシンポジウムを学生時代に見ても、どれだけ感銘を受けるのかな、と思ったのですが、国立の先生方はまだそういう点では余裕があるんだなというのが個人的な感想です。

なので、ホームページの中にそういった一般人向けの場所もあるんだと思うんですけども、内向きだけでなく外向きの、学生みたいなまだこれからの人向け用のコーナーみたいなのが、またそういうのに誘導できるようなコーナーがあるといいなというのが、個人的な意見です。どうか、採用する・採用されないはお任せいたします。ご検討いただけるとありがたいなと思います。以上です。

議長：大井先生が参加されるわけではないんですね。ご意見として。ありがとうございます。ほか、いかがでしょう。ご追加とかご質問とか、おっしゃっておきたいことがありましたら。では、私から。丸山（和）先生よろしいですか。高橋先生から、ホームページか

ら年間ドクター50人が入会してくれれば、というお話がありました。これはドクターの年会費を上げることで既存の会員が辞めてしまおうとか、何かそういったことはお考えがありますか？

丸山(和)：やはり年会費を上げることによって、これを機会に退会する人はいるでしょう。でも、果たしてそれが、どれぐらいの割合なのか、までは全然読めていません。年会費を上げて辞める人がこれだけ増えたら収入は変わらなかった、みたいなこともあるのかなのか分かりませんが。正直、考慮の中には入っていますけど、読めていませんっていうのがコアメンバーで話し合っているところです。

議長：丸山(和)先生、ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。オンラインの方もありませんか？

議長：はい、秋元さん。

秋元：会費について、先ほどの議論で少し言及されていないように思いますので、一言申しあげます。ドクターか歯科衛生士(その他会員)かというふうにおっしゃられますが、実際はそういう区分を取るんですが、ドクターはほとんどの方が事業所経営者なんです。要するに診療所の経営者です。つまり、その種の費用は経費で損金算入されるわけです。もし利益が上がっている診療所であれば、その分税金が減るということです。税引き後の所得として得ている山田さんとは次元が違います。

もちろん、山田さんはそれを確定申告をして少しは戻ってくるのかもしれませんが、多くの勤務スタッフ、歯科衛生士、受付はその他の所得、歯科診療所以外の所得をたくさん持っているわけではないので、確定申告をしないわけですよ。つまり、これは損金にならないんです。だから全く次元が違う。つまり、金額が1万2,000円なのか、3,000円なのかではなく、損金として計上できるものと生活費から出るものだからまったく次元が違うっていうことを、このその他会員費用と歯科医師費用を考える場合には考慮しなければいけないわけです。

職名で言っているから少し誤解を生みますが、損金としてのものと生活費、可処分所得から引くものとはまったく意味が違うということを念頭に置いて、値上げをする場合の金額を設定していかなければいけないと思います。

議長：秋元さん、ありがとうございます。今の秋元さんのお話からしても、診療所でスタッフの会費を負担していればそれも損金になりますということですね。

他にございませんか。それでは、ご意見ご発言はないようですので、私はこちらで議長を降りたいと思います。ありがとうございます。

田中：齋藤先生、ありがとうございます。今回は、第7期4回目でしたが、これで今期のオピニオンメンバー会議は終了です。7期で退任される方、お疲れさまでした。ありがとうございました。また、8期引き続きオピニオンメンバーを留任していただける方、よろしくお祈りします。本日はこれにて終了いたします。ありがとうございます。

以上